鎮痛薬

病気を治すためのお薬ではありませんが、
痛みが強いときに使用することで、症状を和らげることができます。
痛みの程度によってお薬の種類を使い分けます。

鎮痛薬の種類

内用剤について

鎮痛薬を大きく分類すると４つに分けることができます。

NSAIDs ロキソニン・セレコックスなど

■主なお薬の効果
NSAIDsはステロイドではない鎮痛薬です。炎症を抑えて痛みを抑えます。
ロキソニンは効果がはやく現れますが、長く続きません。痛いときに使用も可能です。
セレコックスは効果が長く続くため１日２回の服用となっています。胃への負担が少ないのが特徴です。

アセトアミノフェン カロナール

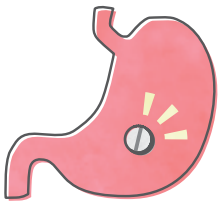
■主なお薬の効果
アセトアミノフェンは痛みを抑える効果は弱いです。頓服使用も可能です。

弱オピオイド鎮痛薬 トアラセット配合錠・ワントラム

■主なお薬の効果
弱オピオイド鎮痛薬は長期服薬する場合などに使用されます。
継続して服薬し痛みをコントロールします。

鎮痛補助薬 リリカ・タリージェ

■主なお薬の効果
鎮痛補助薬は炎症による痛みではなく神経が原因の痛みに使用されます。
継続して服薬し痛みをコントロールします。



外用剤について

モーラステープ・ロキソニンテープ・ロコアテープ・アドフィード・セルタッチパップ・スミルスチック・ナボールゲルなど

- 皮膚から浸透する薬剤が腫れや痛みを抑えます。
- 技術が進み使いやすくなっています。

■主なお薬の効果
痛いときに痛い場所に使用することで痛みを少なくすることができます。
外用薬では全身の副作用が起こりにくいのが特徴です。

鎮痛薬の副作用

以下のような治療目的以外の望ましくない作用（副作用）がでることがあります。

内用剤

- 胃腸障害：胃の痛みやむかむか感など
- 腎障害：むくみや尿の量が減るなど
- 吐き気（トアラセット配合錠で多い）
- 便秘（トアラセット配合錠で多い）
- 眠気、ふらつき（リリカ・タリージェで多い）

外用剤

- かぶれ
- かゆみ・発赤
- 光線過敏症

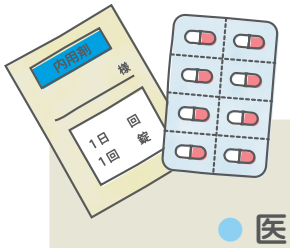
お薬を使う上での注意点

内用剤

- 胃薬を併用したりします。
- 少量から開始したり、吐き気止めを併用したりします。
- 人によっては皮膚湿疹ができたり血小板が下がってしまうような副作用がおこることがあるので、医師と相談しながら使用します。

外用剤

- 貼付し続けるとかぶれやすいため貼付する場所を少しずつずらすなど考えて貼ってください。
- 塗り薬のアレルギー反応は薬剤量に関係ないため注意しながら使用してください。
- 貼付剤を貼った場合直射日光をさける。はがしたあとも衣服でカバーするなど注意をしてください。
- ロコアテープについては、同時に貼付する枚数や内服薬との重複について注意が必要です。



鎮痛薬を使用するときに守ること

- 医師の指示を守ること！
- いつもと違う体調の変化があった場合は報告をする！
- 家族や知人に薬を渡すことはしない！
  （人により薬に対する反応が違うため、危険です）

鎮痛薬をうまく使いながら治療を続けることが大切です。

＼ご相談ください／

男性医師だから
相談しにくい…。

診察中ゆっくり話が
出来ない…。

このようなことなどがありましたら、いつでもスタッフに相談してください。医師と連携をとりながら不安や疑問にお応えいたします。

医療法人 清仁会
北海道内科リウマチ科病院
☎（011）611-1371　スタッフ一同